

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：株式会社 山都竹琉

## 事業名称 1：特定地域づくり事業協同組合の立ち上げ

あらすじ

山都町に住む人、住みたい人たちに働く場所と仕組みを提供することで、雇用の創出、所得向上を図る。それにより、移住定住者を増やし、スマート農業による生産活動を活性化させて、堆肥やバイオガス発電による地域資源循環で永代不朽の持続するまちをつくる。

ストーリー

山都町の未来を見据え、人口減少や高齢化に対応するため、観光資源や有機農業を活かし、地域資源を最大限に生かすために、特定地域づくり事業協同組合を立ち上げる。地元矢部高校と熊本県立大学の学生と連携し、空き家や廃校を再活用する一方で、竹や畜産業の未利用資源を活かしての堆肥製造やバイオガス発電なども進行中。同時に、スマート農業の導入により、労働者不足や技術不足にも挑戦。これらの総合的な取り組みにより、雇用の創出や所得向上を図り、自給するまちをつくる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	自然、文化資本を「経済資本」へ転換する永代不朽の自給するまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な視点でのプロジェクトの持続可能性</li> <li>・地域社会の抵抗感や認知度の向上</li> </ul>
②課題	地域資源や住民の協力の可能性はあるが、それらを統合的に活用していない状況	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	ポテンシャルを最大限に引き出し、地域経済を活性化させ、共同体の結束を深め、自給するまちをつくるため。	
④地域資源	地域住民のスキルやネットワーク	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	①～③の事業のタネに対して、組合員を派遣する。	
⑥担い手 (Who)	協同組合メンバー（山都竹琉、山都でしか、バックカントリーラボ、ジェネラルアグリ） 地域住民、農業者、地域産業関係者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域の特産品の開発と販売 → 地域住民のスキルやネットワークを活かした共同農業プロジェクト → 地域イベントの企画・実施 → 観光プランの提案と実施 → 地域への経済効果 → 協同組合メンバーへの還元と発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトマネージャー</li> <li>・コミュニティ・リーダー</li> <li>・地域経済専門家</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済の活性化</li> <li>・地域共同体の結束強化</li> <li>・地域特産品の知名度向上</li> <li>・新たな雇用機会の創出</li> <li>・持続可能な地域社会の構築（自給するまち）</li> </ul>	

## 事業名称 2：山都町オリジナル竹堆肥づくりと地域資源の高度化利用

あらすじ

放置竹林を整備し、伐採した竹を資源として活用する。鶏糞と混合することで堆肥としての効果を高め、山都町オリジナルの堆肥をつくる。  
堆肥化だけでは消費しきれない鶏糞と竹をバイオガスプラントに利用することで、発電による売電収入も狙う。

ストーリー

中山間地である山都町は面積の7割が森林・原野となっている。伐採した竹を資源として活用することで、竹利用の普及と経済の活性化を図る。畜産業者からの鶏糞と竹という未利用資源を組み合わせた堆肥を作るための原料置き場を確保する。町内のコンダクターが指揮を執ることで、山都町内でエネルギーが循環する。有機農業×山都町オリジナル堆肥でブランディングを狙う。堆肥化だけでは消費しきれない鶏糞と竹をバイオガスプラントに利用することで、発電による売電収入も狙う。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	竹資源を活用する地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹林整備の担い手不足</li> <li>・コスト管理</li> <li>・堆肥置き場の確保</li> <li>・有機資源の好循環のための各種団体コーディネート</li> </ul>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放置竹林</li> <li>・竹林整備の担い手不足</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	伐採した竹と鶏糞を資源として活用することで町のエネルギー循環を図る。	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹林</li> <li>・有機農業文化</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹堆肥 (土壌改良剤: 固形、液体)</li> <li>・バイオガス発電</li> </ul>	
⑥担い手 (Who)	山都竹琉、竹林整備の会、有機農業者、ECO JAPAN	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	竹資源をマナタイズし、竹粉を肥料 (土壌改良剤) と同時に農作物に施肥し農業生産性が向上する。また、竹林整備は竹林の再生を促すため、CO2 の吸収力を高める効果がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学肥料を使用している農家</li> <li>・竹粉利用を推進・普及する農家</li> <li>・飼料や敷料への利用する畜産農家</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	土地劣化の阻止及び逆転の阻止。循環型農業。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機物資源処理 (生ゴミ・し尿) を行う企業や行政</li> </ul>

事業名称 3 : 移住希望者受入れ体制の構築、移住者の定住促進		
あらすじ		
<p>増え続ける空き家を再生し、移住希望者を逃さないまちづくりを推進する。</p> <p>関係人口の増加を図るためにステークホルダーをはじめとした各主体の協力と連携による体験活動や援農の仕組みで山都のファンを育成する。</p>		
ストーリー		
<p>山都町は、棚田や通潤橋などの観光資源に恵まれている。一方で、人口減少、少子高齢化が進み、担い手が不足している。空き家や廃校が放置され、犯罪に利用される可能性もあるため、役場としても対処したいと考えていた。町と包括協定締結している熊本県立大学の学生と地元の矢部高校の生徒、山都町の各主体が協力と連携することによって、まちの魅力発見の機会を提供し、山都町のファンを増やす。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	魅力が人を集める地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家と所有者の情報収集</li> <li>・権利者との交渉</li> <li>・リノベーション費用</li> <li>・採算性</li> </ul>
②課題	担い手がいない。空き家バンクの登録はあるが活用できていない。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	山都町のファンを増やし、人材育成・新規雇用の創出、農業従事者の働きがい・経済成長を目指す。	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少</li> <li>・空き家、廃校対策</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山都町移住体験</li> <li>・学生の合宿や研修の宿舎提供</li> </ul>	
⑥担い手 (Who)	山の都しごとセンター、山都でしか、大学生、高校生	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	空き家や廃校を活用することで、初期費用を抑え、犯罪の温床となるリスクも防ぐことができる。移住体験してもらうことで、移住者が増え、人口減少を抑制する。	地域に詳しい地域住民。まちの魅力を発信したいという思いを持った人。学生。
⑧事業で生じる成果	交流人口、関係人口の増加、移住希望者の定着	

事業名称 4 : 町内スマート農業の普及推進		
あらすじ		
まちの特徴である有機農業をスマート農業による高付加価値型農業へ転換し、農業に携わる仲間を増やし、担い手を確保する。 省力化による負担軽減と販路拡大による所得や魅力の向上にICTやDXを導入したスマート農業を取り入れる。		
ストーリー		
山都町は、40年以上にわたり有機農業に取り組み、有機農業No.1。一方で人口減少が進み労働者不足、若手の栽培技術不足を課題としている。省力化による負担軽減のためにスマート農業を取り入れる。最新技術と歴史ある有機農業がシナジーを発揮することで、山都町のファンを増やし、人財育成・新規雇用の創出、農業従事者の働きがい向上を図る。		
事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	スマート有機農業による高付加価値型農業の地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備投資にかかる資金</li> <li>・スマート農業へ農家の適応</li> <li>・スマート農業技術の指導</li> </ul>
②課題	鳥獣害、労働者不足、若手の栽培技術不足	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	スマート農業技術活用、農業従事者の負担軽減、反収アップ	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業企業</li> <li>・有機農業</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圃場見回りロボットの開発</li> <li>・スマート農機シェアリング、出前作業</li> </ul>	
⑥担い手 (Who)	エネルギープロダクト、金融機関、山都でしか	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	鳥獣害対策により、農業者の負担が軽減され、反収も増加する。新規参入が容易になり、農業従事者増加につながる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備資金を融資する地域の金融機関</li> <li>・農機シェアリングできる事業者、コンダクター</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	スマート農業の普及。高付加価値型の有機農業。	